

にしこまづら祭り

NISHIKOMAGOU DAYORI

No.161

発行

長野県西駒郷

協定管理者：(社)長野県社会福祉事業団

長野県駒ヶ根市
下平2901-7



R7.10.18(土)

にしこま祭



今年で二十回目を迎えた「にしこま祭」。今年はず晴天に恵まれて多くの来場者がありました。

ステージアトラクションは利用者の皆さんによる太鼓やダンスの元気いっぱいな発表からスタート。「陽水風」さんによる生演奏では会場からのリクエストにも応じて素敵な歌声を聞くことができました。午後は敷地内を演奏しながら回ってくださり会場に來れなかった方々を楽しませてくれました。終盤には「殺陣ちいむバチボコ」さんのチャンバラ体験に利用者の皆さんが挑戦。飛び入り参加の方もいて大変な盛り上がりを見せました。



また模擬店のラインナップに新しいお店が増えたり、「福祉ネイル」や「家族写真」といった新企画(詳細は最終ページ)もあり、とても充実した内容のイベントになりました。



すずらん棟の設立経過

～現在の様子まで～



すずらん棟

一昨年度から、長野県の西駒郷機能強化事業として建設が行われていた強度行動障がい者専用棟が令和六年八月に完成し竣工式を迎え、九月に開所となりました。利用者さんやご家族に、すずらんでの支援を経て幸せな生活を再構築してほしいという願いを込めて、「再び幸せが訪れる」という花言葉の「すずらん」という名前に決定しました。

すずらん棟は、強度行動障がいを有する方の生きづらさを軽減するため、それぞれ

の特性に応じた支援・環境の再構築を行い再び地域での「望むくらしの実現」を目指すこと、地域生活が困難となった方を、一時的に受け入れるセーフティネットの役割を果たすという目的で設置されました。すずらん棟は最大二年間で利用後の地域生活を視野に入れる「有期限・有目的」の利用となります。

すずらん棟の支援の流れとして、最大二年間の利用期間の中で初期支援、中期支援、後期支援と段階的にステップアップした支援を行ない、次の移行に繋げていきます。

すずらん棟の建物の特徴は、「職任分離」の考えに基づく生活エリアと活動エリアが区切られた構造と人刺激を軽減するため、職員や他利用者との接触を最小限にし



ワークスペース：日中活動の場所

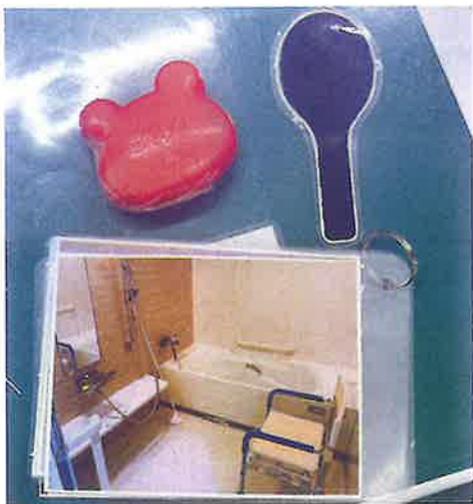
「ここで何をするか」をわかりやすくするため、活動とひもづけた「場所(スペース)」を作っています。柱と壁が動かせるので、自由にレイアウトすることが可能です。

た構造にあります。

利用者さんは棟内で生活の場と活動の場を区切り、日中時間帯は活動の場に移動して日中活動を行っています。

すずらん棟完成から利用者入居までに準備を重ね、令和七年二月に一人目の利用者さんが入居されました。その後、四月に一名、七月に一名、九月に一名、利用開始となり令和八年一月現在四名の利用者さんが生活をしています。入居前のアセスメントや体験から、一人一人の特性に合った支援の組み立てを行ない、イラストや写真などを用いて一日の予定を表す、机やパーテーション、部屋を活用するなど、視覚的に分かりやすく情報を提示し、安心して過ごせるように「構造化」に取り組んでいます。

すずらん棟開所から一年が経ちました。これからも利用者さんが安心して地域での生活が出来るよう職員一同、精進していきたいと思います。



写真やイラストでスケジュールを把握

すずらんでは
こんな事をしてるよ

すずらん棟で暮らしているAさん。見通しの持った生活が送れるよう、1日の予定をシンボルで示しています。スケジュールを伝える際、目に見える場所にシンボルがあると気になり、はがしてしまうため、部屋にあるスマートテレビの画面に表示しています。最初は「次の予定」のシンボルカードを1枚表示することから始め、現在は2枚のカードを表示しています。「これからすること」がわかると安心につながります。

次にAさんの余暇時間を充実させるため、部屋でテレビからYouTubeの音楽を流しています。音楽を楽しむ一方で「音楽をかけてほしい」という要求の仕方が分からず、支援員の腕をつかんで離さない、扉を蹴るという行動が出てきました。そこで音楽を流してほしい時に、支援員に伝えられるよう「チョイスボード」を導入し、音楽を「ながします」「ながしません」を選べるようにしました。本人の特性に合わせて改良を重ね、現在はアクリル板に貼って指を指す形となりました。

また、すずらん棟では、強度行動障がい者を支援する上で必要な知識、技術、実践力を身につけることを目的に北海道の社会福祉法人はるにれの里のコンサルテーションを受け、ケース検討会を行っています。

Aさんは、1日の中でおやつから夕食の時間までに扉を蹴る行為が見られていました。コンサルタントから「活動と活動の間の時間が長く、飽きているのではないか」というアドバイスを頂き、その時間にシュレッダー操作、粘土遊び、ラベル剥がしの活動を入れたところ、扉を蹴る回数が減ってきました。

このように、「扉を蹴る」ことで何を伝えたいのか等、様々な視点で探っている日々です。



居室にあるTV 表面にアクリル板



チョイスボード



シュレッダー



ラベル剥がし

研修会の実施

すずらん棟には北海道・はるにれの里、群馬県・のぞみの園での長期派遣研修を経験した三名が「行動障害支援アドバイザー」として配置されており、日々の支援に加えて、行動障がいに関する知識や実践について西駒郷の内外に向けて発信する役割も担っています。

所内で実施している

強度行動障がい研修は現場の支援員が実際の事例を持ち寄り、検討を行なっており、アドバイザーがはるにれの里のコンサルテーションを受けながら企画運営をしています。今年度は西駒郷以外からも参加があり、地域の事業所の様子を知る貴重な機会となりました。二月十七日の実践発表会には多くの方にご参加をいただきました。

所外においては、十一月二十四日に長野市・サンアップルで開催された「五法人ジョイント研修会」のシンポジウムでは、高水福祉会が運営している中野市のLodgeとすずらん棟の取り組みを紹介しました。発表で



「五法人ジョイント研修会」のシンポジウムでは、高水福祉会が運営している中野市のLodgeとすずらん棟の取り組みを紹介しました。発表で



— R7.9.19『ケース検討会』の様子 — はるにれの里「支援調整マネージャー」15名と「合同ケース検討会」を行いました。

は自分たちの力不足を感じつつも、シンポジストからの激励を受けて思いを新たにすることが出来ました。

また、最近の強度行動障がいに対する関心の高まりを受けてか、近隣より研修講師を依頼されることもあり、その際には地域の皆さんに自閉症や行動障がいに関する事をお伝えしています。

これらの経験を通じて、情報をインプットする重要性は当然ですが、それと同じくらい自身が発信することで理解が深まることを実感しています。



強度行動障がい研修の様子

駒日中 美術活動について

駒ヶ根日中支援課の専科・美術では日頃の活動に加え、作品販売、二次利用や地域貢献活動などにも取り組んでいます。こういった活動が少しずつ地域に認知されはじめ、外部からの依頼も入ってきました。これらについて一部を紹介させていただきます。

①作品の二次利用についてのセレモニー(四月)

高木建設株式会社様(本社 長野市)が、株式会社○○○様の取り組み障害者アートを活用した共創事業サ―ビス「ブリッジアート」を通し、西駒郷の利用者三名の作品を名刺のデザインなどに活用いただくことが決定しました。そのセレモニーが西駒郷で行われ、作品が選



①二次利用についてのセレモニー



②大川智子さん「にがおえ会」



④赤穂小学校クラブ活動(上:堤敏昭さん参加風景)

ばれた浦野美古都さん、竹内一貴さん、飯島鈴子さんが参加しました。

②大川智子さん「にがおえ会」開催(八月)
利用者大川智子さんが長野市シューマートを会場に来場者十五名の似顔絵を制作しました。一般社団法人インクルーシブスタジオ様からの依頼でした。テレビ取材も入りました。

③オープンアトリエ「風と太陽」
地域貢献活動として毎月第二土曜日に開催しています。養護学校の生徒の皆さんを中心に毎回二十組程度の方に参加いただいています。

④赤穂小学校・クラブ活動「アート」を担当(五月十月)
赤穂小学校からの依頼でクラブ活動の「アート」の時間を美術支援員が全七回を担当しました。毎回題材を変えてワークショップ的に実施しました。利用者の濱克治さんと堤敏昭さんが講師として参加しました。



③オープンアトリエ「風と太陽」

⑤看板制作 (九月)

上伊那福祉協会様からの依頼で新しく開所される事業所の看板制作の依頼が入りました。濱克治さん、堤敏昭さん、北原裕之さんの三名が制作に携わり、完成後、納品に行きました。完成品を見てとても喜んでもらえました。

⑥アーティスト・イン・レジデンス「作家滞在型制作」(十月)

十月末、一般社団法人ナナイロ様の事業として劇作家・演出家の越智良江さんを迎えました。短い滞在の中で利用者の皆さんと交流しながらプランを練り、パフォーマンスが行われました。多くの利用者さんが参加することができました。この時の模様が撮影され、映像作品「傍、行きて、春、その時まで」として完成しました。松本で展示され、Youtubeにて公開されました。

⑦にしこま祭に向けた商品制作 (十月)

利用者四名の方の作品をTシャツに二次利用しました。来場者に好評でかなりの枚数を販売することができました。



⑤看板制作 (上：完成した看板、下：納品の様子)



⑥アーティスト・イン・レジデンス [作家滞在型制作]

*映像作品「傍、行きて、春、その時まで」は左のQRコードよりご覧になれます。



⑦にしこま祭に向けた商品 (Tシャツ) 制作

*左から、大川智子さん、白鳥可代子さん、濱克治さん、宮嶋なみ子さんの作品を採用しました。

■タイトル文字

手先がとても器用な今牧さん。所属する駒ヶ根日中支援課すてっぷでは、箱作りや紙を細かく切る作業を頑張っています。

にしこまびょうだより

12/23 クリスマス会

ひまわり支援課



保護者、ボランティアさんと交流し季節の行事を楽しんでいます。

12/23、クリスマス会を行いました。テイクアウトの昼食、プライムハワイアンズさんの歌と演奏、サンタさんのプレゼント、ボランティアさんとケーキを食べ楽しみました。

さくら支援課

令和7年8月10日に、「全日本プロレス」からの無料ご招待があり、松本市のエア・ウォーターアリーナ松本まで観戦に行ってきました。プロレス好きの菅谷さんと田中さんは、無料で配られた団扇を振って応援しました。次々と決まる大技に興奮しタイトル戦では新チャンピオン誕生も見ることが出来ました。グッズも買って楽しんできました。



〈所外活動・JICAの皆さん〉



活動や作業を一緒に取り組んで交流しました。



〈中学生の職場体験〉



赤穂中学校の生徒さん
R7.5/29.30



東中学校の生徒さん
R7.7/8.9

わーく宮田



新施設『え〜る』見学の様子

● “え〜る” にエールを！

上伊那福祉協会が運営する“え〜る”が10月1日に開所され、最新の設備や作業の様子を参考にするため、クリーニング班と就労移行の利用者で見学に出掛けました。

また、わーく宮田の就労移行から“え〜る”に就職した利用者さんとも交流を深め、有意義な時間を過ごしました。

たくさん
食べるね



蚕の飼育の様子

● 桑の葉に囲まれて…

駒ヶ根市が主催する「カイクプロジェクト」による農福連携の一環で、9月7日から22日まで蚕の飼育を行いました。

小さな蚕が繭になるまで、最初は恐る恐るでしたが、段々と愛情が湧くようになり、やがて人のために役立つ蚕を皆で名残惜しく見送りました。



クリスマス会『フルーツ演奏』

● 過ぎゆく年の瀬に…

12月も半ばを過ぎると「今年もサンタさんが来るなあ…」とクリスマス会を楽しみにする声があちこちから聞かれます。

24日には昼食を兼ねて「フルーツ演奏」のミニコンサートが開催され、慌ただしい師走のなか、ゆったりとしたひと時を過ごしました。

その後、プレゼントを背負った職員扮するサンタが各班に登場し、班内は歓喜の輪に包まれました。

終了後には、「来年も楽しみ」との声が多く聞かれました。

わーく西駒

まめ匠手作りアップルパイ



信州まめ匠では、今年のにしこま祭に合わせてアップルパイを限定販売しました。シナモン香る特製りんごジャムをサクサクの生地で包んだ自信作で、当日は焼きたてもご用意しあっという間に完売となりました。

ご好評を受けて、毎日ではありませんが現在も限定販売しております。ぜひご賞味ください。

また、自家製豆乳を使用した手作り豆腐や焼き菓子・豆乳角食パンも絶賛販売中ですので皆様のご来店を心よりお待ちしております。

※数に限りがございますので、お買い物の際は事前予約がおすすめです。

お問い合わせ先 TEL:0265-98-7752 E-mail:nishi-work@nagano-swc.com



にしこま祭 新企画

ネイル体験



今年度のにしこま祭は二つ新しい企画がありました。まず一つ目は福祉ネイル。これは「お洒落をしてにしこま祭に参加しよう」をテーマとして、祭の前日、前々日に「福祉ネイル陽だまり」の河野茜さんを招いて行いました。利用者の皆さん二十名以上（男性も数名）が参加しました。プロのネイリストさんに爪を美しく整えてもらうという普段はあまり経験できない時間とその仕上がりには皆さんとても嬉しそうにされていました。



家族写真



2つ目はにしこま祭当日に行ったのが「家族写真」です。利用者の皆さんとご家族の現在の記録を残すお手伝いができればと考え企画しました。ボランティアでアトリエ「風と太陽」の活動記録を撮っていただいている福田徹さんに撮影を依頼しました。撮影時の福田さんのご家族へのアプローチが素晴らしく、皆さんとても良い笑顔をされていました。全部で50組近いご家族が参加され、驚くほど素敵な家族写真が仕上がりました。どちらの企画もとても好評で、来年度以降の開催を検討したいと思います。



編集後記

うまくいかない日があっても大丈夫。立ち止まったことは後退ではなく、次の一歩を選ぶための時間。迷うことも、考え抜こうとする姿勢も誰かの安心や未来につながる一歩。

焦らなくてもうま(午)くいく。あなたの歩幅で踏み出す二〇二六年にしましょう。(午年生まれのM)



※その他、衣類やタオル、毛布等多くの方々に寄付を頂いています。

- | | | | | |
|-----------------------|-------------|---------------|---------------|------------------|
| 国際ソロプチミスト伊那様
車椅子四台 | 飯島勲様
百万円 | 一般(匿名)
三千元 | 大村奈緒子様
一万円 | 北澤電機製作所様
二十万円 |
|-----------------------|-------------|---------------|---------------|------------------|

令和七年度寄付一覧